

ここに注目！ **経営者の若返りで、商店街運営が活性化、新しいプロジェクトで地域開発に貢献する。**



ポイント

商店街の活動拠点「たかなべ町家本店」をはじめとする町屋風建物の整備(町屋プロジェクト)を中心として、オリジナル暖簾の作成(のれんプロジェクト)や灯笼の設置(あかりプロジェクト)によって、商店街の景観に統一感を持たせ、商店街の歴史的、文化的な空間づくりを実現している。結果として出店者が増加し、空き店舗数も減少している状況である。また、定期市やまちゼミなどの賑わい創出のための取組や特産品であるキャベツをテーマにした地場産品の開発等にも力を入れ、県内でも注目度が高い。

[商店街概要及び取組の背景]

地域に根ざしたまちづくりを目指して

古くは高鍋藩の城下町として発展。昔から商業の町として栄えた町・小丸地区に位置する当協議会の4商店街は、平成19年には96店舗まで店舗数が減少した。

当協議会が主体となった商店街の景観整備などの活動を通じ、店舗数は現在103店舗まで回復しており、今後も住民との連携を図りながら、地域に根ざした地域密着型の商店街づくりを目指していく。

[取組の概要・効果]

Plan・Do

現代版“城下町”へ「4つのプロジェクト」

「歩いて楽しい」「新しい賑わい」というキーワードの下、その実現に向けたプロジェクトを立ち上げ、平成21年度から取組を開始した。

東西南北に直線的に伸びる商店街の景観をのれんによって統一する、「のれんプロジェクト」。

昼は芸術作品として、夜は灯りをともし灯笼の役割を持つ灯笼を設置する「あかりプロジェクト」。



商店街の活動拠点「たかなべ町家本店」

商店街に残る古い家屋・空き店舗を改装・再生し、情緒ある町屋風の建物を商店街に増やしていく「町屋プロジェクト」。

商店街の活性化を図るため、定期市の開催、新たな新商品の開発を行う「自主独立イベントプロジェクト」。

[効果の評価と改善策の実施等]

Check・Action

「町屋」風の商店街づくりに新規出店も

商店街中心にある空き店舗を町屋風に改装した物産館「たかなべ町家本店」は、現在、協議会が運営を行っている。それまでの商店街にはなかった憩いのスペースとなっている。

また、平成24年度から、町屋風に改装を行った店舗に対する町の助成制度が始まり、現在までに5店舗が利用し、町屋風への改装を遂げた。商品開発についても、精力的に継続しており、町特産のキャベツに着目した商品づくりで新聞・テレビ等に数多く取り上げられている。のれんやあかりもメディア等に取り上げられ、何より事業主たちの参加意識が高まった。商店街への新規出店も増え、平成24年度は4軒の店が出店を果たした。

〔実施体制〕

若手を主体とした協力体制の構築

協議会では、2代目3代目の若いメンバーが中心となり、発足から活動を行ってきた。まだ30～40代と若く、今後も協議会を担っていく。これらのメンバーは、全員地元消防団や商工会議所青年部などの組織に入会しており、人脈も広く深い。また商店街事業主たちもこれらの組織OBが多いので、協力体制もある。

また、狭い範囲の商店街組織であるため、ほとんど毎日顔を合わせている間柄で、何事にもスピード感を持って対応できるのも強みである。

現在は、物産館「たかなべ町家本店」を軸に自主運営を行っているが、町行政との関係も密接に続いており、平成25年度は「あかりプロジェクト」として、国内作家5名を招いての公開制作を協賛金と町助成金で開催し、新たに5つの灯籠を商店街に設置した。

基本データ

所在地：宮崎県児湯郡高鍋町大字高鍋町・北高鍋
会員数：103名
店舗数：103店舗
関連URL：
<http://www.puraccho.jp/modules/myalbum1/photo.php?lid=26>



「あかりプロジェクト」の灯籠



キーパーソン

高鍋町まちなか商業活性化協議会
会長 小澤 正隆

商店街の若手が会長に、試行錯誤の日々

平成21年10月から現在に至るまで会長を務めております。この協議会を発足したキッカケは、当時の商工会議所会頭から「まちづくりの補助事業があるから、やってみないか」と声をかけられたことからでした。それまでも、地元の商工団体や公民館、消防などで活動はしており、この町に対する愛着は人一倍持っていました。衰退していく町・商店街への不安を抱えるなか、一大決心をしてこの「まちづくり」という課題に取り組むことに致しました。現在でもそうですが、私は商店街のメンバーの中で最年少でありました。やる気・元気は十分にあったのですが、何をどうすればよいのか探りながらのスタートでした。まず行ったのは商店街のメンバーと「話し合うこと」でした。それまでも、仕事や地域の活動の中で関係は築いておりましたが、それ以上に信頼・連携を築くことに注力しました。何かしようとする時にはみんなで協議し、終わったら報告して、商店街活動

の事以外でも何かにつけて集まり、話すことを心がけました。中心メンバーである三役とは、毎日のように顔を合わせていましたね。そうして様々な事業を行っていくうえでの地盤を作っていました。今思うと、そうした活動が補助事業終了後の現在でも、この協議会が活動を続けている要因だと思います。

新しい城下町「ネオ城下町」へ

活動を行うにあたり、商店街自体を誘客の装置とすべく景観に重点を置きました。高鍋町は古くは江戸時代より高鍋藩として栄えた城下町でありましたが、城下町と呼べるような古い建物はあまり残っていませんでした。そこで私たちが掲げたのが「ネオ城下町」というテーマです。残っているものは活かし、ないものは現代の感覚で創造していくことにしました。様々なことを行いました。店舗独自のオリジナル暖簾の製作や芸術性の高い石灯籠の設置、景観ガイドラインの作成等々、そしてこれらの活動の集大成として平成24年4月には商店街中心部に旧家を改装した物産館「たかなべ町家本店」をオープンし現在に至っています。行政の協力もあり、商店街内において町家風に改装する店舗が続いております。今後さらに、この商店街を盛り上げていくために頑張ります。